

カトリック

広島教区報

No. 95

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

クリスマスと新年のお慶びを申しあげます 馬年や召命促進初便り

カトリック広島司教区長
前田万葉司教



クリスマスイブに、わたしたちは、司教館ホールで十字架を中心に集合しました。そして、十字架を先頭に聖堂前の大馬小屋まで行列し、馬小屋に神の御子を迎えました。その後、また十字架に並び従い、世界平和記念聖堂の祭壇へと向かい聖夜ミサを始めたのであ

ります。

十字架に並び従う

聖夜かな

馬小屋に御子を迎えて

クリスマス

祭壇が飼い葉桶なり

聖夜ミサ

やはり、飼い葉桶の幼子

(飼い葉桶餌と成りしか神

の御子)は、ミサ祭壇のご

聖体に通じ、そしてキリス

トの十字架に通じているの

であります。つまり、「父

は御独り子をこの世に遣わ

し、その御独り子キリスト

は、神でありながら人間と

までなつてくださり、死に

いたるまで、しかも十字架

の死にいたるまで、自分を

無にして私たちを大切にし

てくださいました」(よりそ

神)のです。

神共に居る喜び降誕祭 毎日がサンタクローズ クリスマス 鞆町の馬小屋ツリーや 平和説く

わたしたちも、毎日が、人を仕合わせにするサンタクローズであり、神と共に居る喜びを分かち合うクリスマス共同体でなければならぬのです。世界平和記念聖堂(鞆町教会)境内の大馬小屋から平和が説かれ、広まつってほしいものです。

馬年や召命促進初便り

「今でしょ!」とは、二〇一三年の流行語大賞の一つです。「召命促進何時するの? 今でしょ!」と、呼びかけて、新年を始めたかと思えます。

先ずは、「新年三月二十一日に猪口大記新司祭叙階式」という初便りを申しあげます。それに続いてロイ神学生の朗読奉仕者選

任式、教区予備神学校入学者や新神学生の発表などなるべく早馬で朗報を届けたいと思えます。そして、東京教区より出向中の大西勇史助祭の広島教区転籍と司祭叙階が早期実現しますようにとも祈りましょう。

また、乙女峠殉教者列聖申請巡礼実施、イエズス会や淳心会との契約更新と人事交流、教区創立百周年に向かつての十年間の目標とそれに向かつての短期目標なども早期発表いたします。



大馬小屋 (世界平和記念聖堂)

前田万葉司教メッセージ
教区の動き・信仰年閉幕行事
J-CaRM広島
東日本大震災支援関連・世界平和記念聖堂関連
地区・海峡からの風・施設・ひと粒

一面
二〜四面
五面
六・七面
八〜十面

猪口大記助祭 司祭叙階式

日 時: 3月21日 (金・祝) 14時~

場 所: 世界平和記念聖堂

司 式: 前田万葉司教

受階者: マキシミアノ・

マリア・コルベ 猪口大記

(広島司教区助祭 鳥取教会出身)

式中、ロイ神学生の朗読奉仕者
選任式も行われます。



午年の「うま」を「飾り馬」にしたのは、司教叙階三歳馬として、新年は特に馬力で勝負の年と願いを込めたつもりです。皆さんどうぞご理解とご協力をよろしくお願い申しあげます。

飾り馬三歳馬にも

馬力あり

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇一三年度(第二回) 広島司教区宣教司牧評議会開催】

昨年十二月十五日、二〇一三年度第二回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催された。前田司教、司祭、修道者、信徒の二十五人が出席した。はじめに前田司教から教区の取り組みについて以下のことを話された。

「色々な取り組みは、各教会を巡り、活動していることを感じた。教区レベル、地区レベルの行事を通して、百周年に向けて確認し合えたのではないかと思う。」

- ・津和野の殉教者の列聖運動については、ローマへ列聖の要請申請を行うために、まず司教団の承認を得るための常任司教委員会、臨時司教総会を経て正式な申請を行う予定。ローマ

への列聖申請の巡礼団を企画募集する。

- ・召命促進委員会については、承知のように信仰年閉幕ミサの中で、予備神学校の開校宣言を行った。

- ・青少年育成委員会については、予備神学校の開校にも関わりのあることが確認された。

- ・教区共通力テキスト(要理)の作成については、今後、百周年に向けて、カトリック全体の方向性や取り組みを見据えて行う予定。

- ・二〇一四年から二〇一五年に、シノドス(世界代表司教会議)が開催される。テーマは「家庭」の予定で、その流れに沿って様々な取り組みを行っていききたい。

- ・教皇から「信仰年」の次の方針として「奉獻生活の年」が掲げられている。まさに司祭、修道者の召命に繋がっていくことである。
- ・平和の使徒になること、まさに平和を伝



えていくことが問われている。信徒が実践しなければならぬことはしっかりと実践する。司祭、修道者が行うことはしっかりと行っていく。召命を見据えて歩んで行きたい。

次に、信仰年と教区創立九十周年の取り組みについて、平和の使徒推進本部(以下、推進本部)から報告があった。

- ・信仰年閉幕ミサ関連行事について、皆さんの取り組み、協力に感謝。

これから教区行事に引き続き協力をお願いしたい。

- ・今回、『教会ガイドブック』を作成した。実費プラス世界平和記念聖堂補修献金をお願いして配布する。カラー版

で、スタンプ帳にしたことをPRして欲しい。

- ・絵画&フォトコンテストの作品の応募に感謝。

- ・津和野殉教者講演会も良い機会であった。

続いて教区創立百周年へ向けてのテーマを話し合うため、出席評議員が三つのグループに分かれ、三十分程度の分かち合い、意見交換を行った。

色々な意見が出されたが、具体的にまとまらなかった。その結果、推進本部でまとめ、その後、前田司教と推進本部で調整し、テーマを決めていくこととした。前田司教から「喜び」「希望」を忘れないこと。その中で「平和」「きょうどう(外国籍の方との関わり)」「養成」を具体化していくことが望ま

れる。今回、テーマとして検討していきたい。

教区創立百周年に向けてこれからの教区全体の取り組みとしては、具体的に推進していく必要がある。各小教区で何か良いアイデアがあれば推進本部に提案して欲しい。今後、そのためのチームを作るかどうか、どう進めていくかと言ったことを考えて行く予定。



教会ガイドブック

なお、今回の教区宣司評に出席した評議員は、本年度末で二年間の任期満了となる。次年度は新たな評議員が選出されて二〇一四年度第一回教区宣司評が開催される予定。

意見や要望などは、平和の使徒推進本部まで。

「信仰の光」に感謝!

さった各担当者の方々、また子どもプログラムを企画してくださったリーダー

二〇一三年十一月二十三日(土・祝)の前夜祭から始まり、二十四日(日)の講演会、各地区での取り組みの報告、そして信仰年開幕ミサで締めくくられた信仰年閉幕行事「信仰の光」は、世界平和記念聖堂(カテドラル)に各地からたくさんの方々が集まってくださり、広島教区創立九十周年としてのこれからの歩みを輝かせるものとして、私たちの大きな力になったように思います。

前夜祭を準備してくだ



前夜祭の集いの様子

たち、さらに昼食を準備してくださったおもてなしチームの方々本当に感謝です。また各地区の取り組みの報告を準備してくださった方々も本当にお疲れ様でした。それぞれの地区で違った報告を見ることができて、信仰年に色々な取り組みをしてくださったことが良く分かりました。教区創立九十周年のひとつの大きな取り組みである津和野殉教者の列聖運動が広島教区として始まっていますが、教区の皆さんに少しずつ理解してもらおうと行われた日本二十六聖人記念館館長デ・ルカ・レンゾ神父様の講演会にもたくさんの方々が参加してくださいました。そして、ミサ献金で三十五万九千円の活動費をご協力いただいたことも合わせて心から感謝申し上げます。さらに絵画&フォトコンテストにも、総数二百六作品・百五十四名



デ・ルカ・レンゾ神父

の応募があつて、しっかりと自分の小教区を改めて見てくださいましたことと思っています。これからも自分の小教区の歴史などを振り返りかえっていただくことになりませんが、今回作られた教会ガイドブックを持って、自分の教会以外の小教区をもぜひ廻ってみてください。信仰年は閉幕しましたが、この行事を含めて教区は創立百周年に向けて具体的に歩み始めました。平和の使徒推進本部としても、これからのさらなる取り組みに対して、信仰の光を輝かせて歩んで行きたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(平和の使徒推進本部長 服部大介神父)

教区創立90周年信仰年閉幕行事「信仰の光」私の教会 絵画&フォトコンテスト 入賞・入選者

入賞者

絵画(子どもの部)

前田司教賞

大水 来夢凜(呉教会)

三末名誉司教賞

真田 大地(玉島教会)

服部推進本部長賞

佐世 沙弥子(防府教会)

絵画(大人の部)

前田司教賞

小野 剛(防府教会)

三末名誉司教賞

村上 信行(尾道教会)

服部推進本部長賞

祇山 登(呉教会)

写真

前田司教賞

青木 信雄(可部教会)

三末名誉司教賞

米澤 玲子(三篠教会)

服部推進本部長賞

竹内 秀晃(幟町教会)

審査員特別賞

榎本 敬子(幟町教会)

入選者

絵画(子どもの部)

川口 すみれ(祇園教会)

福田 琴弓(祇園教会)

生田 水音(長府教会)

木村 和可奈(三篠教会)

三宅 和央(観音町教会)

田中 奈々葉

田中 たくや (観音町教会)

絵画(大人の部)

辻千鶴江(翠町教会)

吉富 克見(廿日市教会)

住吉 芽衣(翠町教会)

城根 和希(翠町教会)

林 裕子(細江教会)

中崎 荒丸(福山教会)

写真

光教会信徒

藤井 芳子(祇園教会)

田辺 滋(玉島教会)

小嶋 靖之(萩教会)

吉村 結子(山口教会)

楠本 優美子(呉教会)

飯田 美佐子

(観音町教会)



三末名誉司教賞
米澤 玲子 (三篠教会)



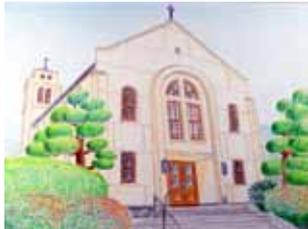
前田司教賞
小野 剛 (防府教会)



前田司教賞
大水 來夢凜 (呉教会)



前田司教賞
青木 信雄 (可部教会)



服部推進本部長賞
祇山 登 (呉教会)

私の教会 絵画 & フォトコンテスト 入賞作品



三末名誉司教賞
真田 大地 (玉島教会)



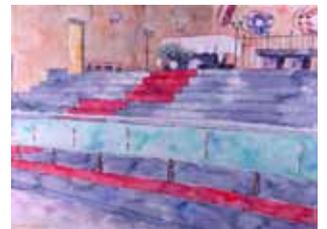
服部推進本部長賞
佐世 沙弥子 (防府教会)



服部推進本部長賞
竹内 秀晃 (幟町教会)



三末名誉司教賞
村上 信行 (尾道教会)



審査員特別賞
榎本 敬子 (幟町教会)

力障連 (山口) 発足十五周年 記念講演会・研修会

爽やかな秋の陽射しに恵まれた昨年十一月十六日(土)カトリック障害者連絡協議会(山口)の発足十五周年記念講演会が、約七十名の参加者を迎え宇部教会で開催されました。力障連(山口)は、一九九八年十一月一日諸聖人の祭日に山口地区の障害者とボランティア三十五名で発足し、昨年で丁度満十五年になりました。現在会員数も七十名を数えるまでになったことは、多くの方々のお支えによるものであり深く感謝しあげます。

十時三十分より、担当司祭の恩地誠神父様のお祈りで開会し、続いて松田俊昭会長(岩国教会)が挨拶の中で「私たちの会で司教様の講演が実現するなんて夢のようです」と言われたように、記念講演の講師に私たち広島司教区の前田万葉司教様をお迎えし、ご講演をいただくことができました。テーマは『あなたの信仰があなたを救った』。司教様は「日本カトリック障害者連絡協議会」の顧問司教でもいらっしやいます。その三十周年には『力障連の三十路寿ぐ信仰年』と詠まれましたが、今回は、「力障連も信仰年や七五三(十五年)」と祝つていただきました。

お話の中で、七月二十八日付カトリック新聞「みんな燦爛」に掲載された松田会長の記事に触れられ、「障害は不自由だけれども不幸ではない』これが、『あなたの信仰があなたを救った』ということ。誰でも年を取ると病氣や障害を持つことになっていくのですから」とのお言葉に多数の参

加者がうなずいていました。

午後の分かち合いに司教様も参加され、質問にも丁寧にご答えておられました。十四時からの司教ミサは「十五周年の祝賀の感謝とこれからの派遣ミサ」と位置づけられ、「平和のあいさつ」では祭壇から降りられ、沢山のの人たちと握手を交わされました。ある障害者の言葉「司教様の手は固くて大きくて温かかった!」

「十五歳は昔なら元服の年であり、これからは新しくひとつの共同体として、自分の生活を通して、障害者健常者共に互いに手を携え歩んでいく、証し人になって行く。障害者だからこそ証しに意味がある場合もある。何度でも声を上げ続けることが大事。」と励まされました。最後に「不自由さ、生きにくさを信仰的にどう受け止めていくか、どう生かしていくか、与えられたところで、神の栄光が私を通して現れるという信仰を生きましよう」と結ばれ、明日からの「力障連(山口)」の行く手を照らしていただいた思いでした。

神に賛美と感謝!
(力障連山口事務局長 宮崎玲子)



宇部教会 前田司教の講演

ドミニコ・サビオ
イサコフ
李尚潤神父、韓国へ帰国

李尚潤神父は、釜山・広島・インファンタの司教区で締結された姉妹縁組により、二〇〇七年に、釜山教区から派遣。広島で日本語研修後、二〇〇九年より、岡山・岡山南教会、二〇一二年より、倉敷地域共同司牧チームメンバーとして活動。六年数か月の任期を終了し、二〇一三年十二月十二日に、韓国へ帰国されました。

神父様ありがとうございます

三登昌一(幟町教会)

李神父様が広島に赴任されたところは、「少し物静かな方」という印象でした。ところが、一年あまりで日本語を習得されてからは、持ち前の明るさと楽しい口調で、いつも周りの人々を楽しませてく



右、李神父

ございました。

神父様ご自身が私と兄弟みたいにソックリと言われたその風貌からは想像もできませんが、意外にもピアノを弾き語り、日本語と韓国語の教会音楽のCD制作までこなされました。

帰国後は、釜山教区で司牧の務めに専念されます。

教区の皆様、ともに李神父様のご活躍をお祈りいたしましょう。

アシジのフランシスコ

早副穰神父 帰天

二〇一三年十一月八日、肺炎のため、岡山市協立病院で帰天。享年八十七歳。一九二六年五月三日、広島県福山市生まれ。一九四五年八月六日、被ばく。一九四七年八月十五日、長束修練院にて受洗。

一九六一年三月二十一日、広島教区司教座聖堂にて司祭叙階。祇園教会、廿日市教会、福山教会、東京カトリック大神学院院長、幟町



故早副穰神父

J-CaRM広島便り

ブロック・ロザリオの福音

ベリス・メルセス宣教修道女会
Sr.ジョイ ガルシア

(前号よりつづく)

萩でブロック・ロザリオを始めるにつれ、フィリピーナの皆さんは教会のごミサにも与るようになってきました。そして、お互いに言葉を交わし、分かち合い、励まし合い、マリア様ボックスという助け合い基金に少しでも献金し、バザーに参加するなど、たゆまぬ努力で互いの絆づくりを強めてきました。さらにその助け合い精神は教会外でも発揮されるようになりました。たとえば、昨年八月に萩市須

佐を襲った大洪水で被災した家々の清掃奉仕作業(写真)を率先して行ったのです。

しかし、ブロック・ロザリオのいちばんの成果は、ダブルの子どもたちに良い影響が醸し出されてきたことでしょう。お祈りのとき、お母さんは子どもたちにお祈りの背景を説明してあげます。子どもたちがお祈りのことを質問し勉強し始めたので、お母さんたちには、お家で子どもたちと話すときは《神さまのお話》も話してあげる時間を特に作ってくださいね、とお願いしています。お母さんに連れられてごミサに来たら他の子どもたちと知り合えて遊ぶのも嬉しいことです。

教会、三篠教会、観音町教会、岡山教会を歴任。その間、地区長、司教総代理、幼稚園園長を兼任。主任司祭、幼稚園園長時代には、その独特の語り口により多くの人々を信仰の道に導いた。東京カトリック神学院院長時代には、多くの神学生を育て教育者として活躍した。教え子の中には現役引退を含め七名の

司教がいる。二〇一一年には司祭叙階五十年の祝いをを行い、多くの司教司祭が集まる中で元気に記念ミサを司式した。被ばく体験を語り、平和の大切さ、核兵器の廃絶を訴えていた。帰天する二週間前まで岡山教会で車いすを使いながらも小教区のミサを手伝っていた。その語りは何時も聴く者の心を豊かにした。

こうして子どもたちも信仰を授けられ高められていく環境に置かれてきました。はじめは、夫に子どもを受洗を反対されたためらっていたのに、三人のお母さんがついに勇気を出して子どもを受洗させるに至りました。神様と聖母マリア様のお恵みにより、萩教会で昨年七月に三人の子どもたちが受洗し、さらに九月にもうひとりの子どもが堅信に与りました。

私は萩につづいて他の教会、他のグループでもこのブロック・ロザリオの豊かなお恵みの体験の分かち合いを始めております。このロザリオのお祈り、福音と御ことばの分かち合いをさらに自信をもって熱心に広めて参りたいと思います。(おわり)



東日本大震災支援

広島司教区

災害サポートセンター

原田豊己神父

東日本大震災から三月で三年になります。当初の緊急援助とボランティア活動から現在は、継続的で地道な活動にシフトしています。

現地の社会福祉協議会からの要請で行うボランティア活動は、仮設住宅などの訪問を継続して行うことが求められています。そのため、多人数の一週間単位で行う活動は、ある意味で終了したかもしれません。大阪教会管区が支援する



ノートルダム清心女子大学の学生と原田神父

広島司教区 堅信を受けられた方

(2013年10月～12月まで)

おめでとうございます！

- ◆津山教会 (10月6日)
アッシジのフランシスコ 間名清司 / ヨセフ 和仁隆明 / ベルナデッタ 李綾花 / ルイサ 河原美香
- ◆観音町教会 (10月27日)
ステファノ 安足伸吾 / ヨゼフ 山田竜也 / カタリナ 山田珠未 / アグネス 山田智未 / 小さき花のテレジア 川上由紀子 / インマヌエラアグネス 飯田知香 / リジュのテレーズ 田中史子 / アントニオ 三宅忠敏 / ペトロ 坂井恒
- ◆福山教会 (11月3日)
パウロ 秋山秀治 / ヨゼフ 藤井賢二 / マリア 藤井睦子 / ミカエル 小川智弘 / ヨゼフ 村上稔 / ガブリエル 貝原一成 / ガブリエル 大谷栄一 / セシリア 山岡サカエ / 清めのマリア 千種麻衣 / マリアインマクラータ 久田見嘉子 / ドミニカ 笠置夏希 / アッシジのフランシスコ 森渕海斗 / 聖ベルナデッタ 檀上萌 / クララ 庄司佳央 / マリーテレーズ 森渕茉莉愛 / ペトロ 大石一貴 / マリア 田村志織 / アッシジ聖フランシスコ 山口純平
- ◆翠町教会 (11月17日)
マタイ 濱村恭司 / ヨゼフ 伊藤正弘 / エリザベト 片山陽子 / ベルナデッタ 可部泉 / アンジェラ コセル・アンジェラ / サラ クルス・ツカモト・シャロン / クララ ガルシア・ツカモト・ウエンディ / ホルゲ ガルシア・ツカモト・ホルゲ

大船渡ベースが社会福祉協議会から委託された以外に独自に継続して行う活動は、①お茶っこ(お茶を飲みながら手芸、映画上映など) ②仮設住民の訪問 ③在宅訪問 ④子育て支援 ⑤外国人支援(就労支援と日本語サポート) ⑥介護施設でのボランティア ⑦仮設住宅居住者の買い物、病院への送迎です。

現在求められていることは、長期的に現地にとどまり、仮設住宅居住者の中でアルコール依存、自死者を防止するため、専門的なカウンセリングができる人材の派遣です。また、生活を安定させるための行政との話し合いの場に同席して適切な助言ができる専門性を持つ人材が求められています。

広島司教区災害サポートセンター収支報告 (2011年4月1日～2013年11月30日現在)

収入	献金	15,242,241
支出	事務運営費	
	振込手数料	28,210
	事務費	2,290
	旅費交通費	846,598
	支援費(派遣者の経費を含む)	
	経費	1,075,000
	送料	447,950
	物資購入	37,900
	「地ノ森いこいの家」支援	1,000,000
	支出の部合計	3,437,948
繰越		11,804,293

の現地物品の購入などの情報支援。担当、原田神父までお気軽にご連絡ください。

昨年十二月二十九日(日) 聖家族の祝日にカトリック三原教会にて、名譽教皇ベネディクト十六世の方針に基づき、前田万葉司教司式のミサの中で、日本キリスト聖公会 聖家族教会の信者のカトリックへの受け入れを兼ねた堅信式が行われました。

聖家族教会の山岡功典司祭を始め大人九人と子ども二人の十一人がミサに参加し、当日都合により参加できなかった方々を含めて、十六人がカトリックに受け入れられました。



日本キリスト聖公会 聖家族教会信者 カトリックへの受け入れを兼ねた堅信式

聖家族教会

山岡功典司祭のコメント

名譽教皇ベネディクト十六世発布(二〇〇九年十一月)の使徒憲章アングリカノールムチエティウス(アングリカンの伝統を持ったままカトリック教会に受け入れるという内容)を受けて、広島(三原)で「聖家族」という名の小さな群れ(教会)が聖家族の祝日に、前田司教様を始め三原教会アルナルド神父様、広島教区の皆様のご理解と主の御導きによりカトリック教会の中に受け入れられました。キリストを頭とした御身体なる教会の一部として世に証しつつ手を携え御国をめざして行きたいと思ひます。この摂理の出来事を心から神に感謝します。



重要文化財世界平和記念聖の耐震調査委員会の開催

広島教区カテドラル・世界平和記念聖堂(重要文化財)の耐震診断事業の第一回有識者委員会が開催された。委員会に先立ち前田司教より各委員に委嘱状が交付され、聖堂の保存と耐震対策のために指導いただきたいと挨拶。委員は、いづれも文化財建造物の保存や耐震対策のエキスパートで、独立行政法人・建築研究所の長谷川先生、京都女子大学の斎藤先生、早稲田大学の山田先生、京都工芸繊維大学の松隈先生の四名。会議では重要文化財の価値と認められた村野藤吾の設計による聖堂の意匠やたたずまい、並びに世界平和を祈念する聖堂建築についての耐震補強や補修の検討方針を確認し、九月に実施した現況調査の結果が審議された。

現況調査の概要は次の通り。コンクリートの躯体の亀裂や剥落、外装のモルタル煉瓦の劣化が一段と進

み、内壁に外壁からの雨水の浸透した跡や亀裂が多く見られ、人造大理石の床にも新たな

亀裂が発生。心配された祭壇の再臨のキリストのモザイク壁画は亀裂やタイルの剥離など部分的であった。また、大屋根の漏水や地下聖堂の湧水も確認。躯体のコンクリート強度は、構造計算の基準値を満たしていたものの、コンクリートの中性化が前回補修時より一層進み、コンクリート中の鉄筋が錆び出す恐れがあり、打ち放しの風合を残しながらアルカリ性を回復する材料・工法が課題。コンクリートの柱や梁の中に



有識者委員会の様子

ある鉄筋は、非破壊検査の結果、おおむね構造設計図の通りであった。地盤調査では、基礎設計の設定条件である地下三〜八メートルにある礫まじりの砂層を確認。なお、この砂層は大地震(マグニチュード7.5程度)で液化化する可能性があり、建物の常時微動測定の結果、液化化が進むと鐘塔の東西方向に地盤と建物の振動周期が共振する可能性があり、精査が必要。

続いて、地震時に落下が心配される信者席上の木製リブの付いた天井は、大屋根を支える鉄骨トラスに木製の小梁と直径十二ミリのボルトで吊り下げられ、部材の腐朽は見られないが、鉄骨に緊結されていない箇所があった。また、祭壇上のドーム天井には、仕上げ材の漆喰に多くの亀裂が見られ、大きな地震で剥落する恐れがある。外装のモルタル煉瓦は、第一次補修工事の際にステンレスアンカーと目地補強による落下防止が行われており、ひび割れが発生しているものの壁体の一体性は損なわれて

いない。また、照明器具や放送設備機器などの落下の危険性がある。なお、地震によるパイプオルガンの転倒などは検討課題とされた。以上の結果から構造計算による耐震診断判定を行い、聖堂のどの箇所をどこまで修復するかを定める保存活用計画について、文化庁、広島県、広島市と協議する。次回委員会は四月下旬に開催を予定。

世界平和記念聖堂保存のための工事には、多額の費用が必要です。保存活用委員会では、耐震・保存修復工事への募金活動を行っています。次の口座または教区事務局で受け付けています。カテドラルの保存に、ご理解、ご協力願います。(聖堂保存活用委員会)

世界平和記念聖堂募金 郵便振替口座

口座名: カトリック広島司教区

口座番号: 01320-3-109791

*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

地区便り

広島地区

「広島キリシタン」

殉教祈念祭

己斐の殉教碑前で祈りを捧げ、観音町教会まで十五分ほど徒歩巡礼を行い、教会で殉教祈念ミサ、講演会が行われます。

日時：二月十一日（火・祝）九時半

内容：九時半、殉教碑前（広島市西区己斐東清心学園入口）集合。十時十分、殉教祈念ミサ（司式・前田万葉司教）。十一時十分、講話（講師・服部大介神父）十二時より茶話会。

「平和プジョー1981」

「社会の中の教会をめざして」平和の使徒となるために

日時：二月二十三日（日）九時半のミサ、十五時頃まで

講師：森山信三神父（カトリック福岡教区 西新教会主任司祭）

場所：世界平和記念聖堂 ミサ：前田万葉司教

2.11「建国記念の日」を問う広島集会

日時：二月十一日（火・祝）十四時～十六時

場所：広島カトリック会館 多目的ホール

講師：肥塚倅司神父 講演：『迫害の歴史から信教の自由を考える』浦上四番崩れ」の歴史的考察から

参加費：五百円（資料代ほか）

乙女峠殉教者列聖祈念の旅 肥塚倅司神父様と行くイタ

リア巡礼の旅七日間アッシジ・ベルージャ・ローマ

フランシスコ教皇様謁見予定 期間：三月十四日（金）

三月二十日（木） 同行司祭：肥塚倅司神父 問合せ先：㈱阪急交通社

電話082-545-1555

岡山・鳥取地区

岡山鳥取地区

宣教司牧評議会

昨年十月十三日（日）、第二回地区宣教司牧評議会が、玉島教会で開催されました。第三回は、一月十三日（月・祝）に岡山教会で開催され、新年の会食と交わりの時を持ちました。信

仰年の間に何を感じ、何をしてきたかを引き続き考え、広島教区創立百周年へのテーマ、サブテーマを検討しました。

「結婚感謝の集い」

結婚感謝の集いが、二月二十三日（日）に岡山教会で行われます。結婚の約束の更新、夫婦ごとに祝福をいただきます。楽しい茶話会も準備しています。参加費無料。参加希望者は、申し込みが必要です。

「岡山市内巡礼」

鶴島への旅二十六聖人殉教をしのび、岡山市内巡礼が、二月一日（土）に行われます。岡山南教会に集合し、約9.5キロの道程を約三時間で巡礼します。

日程：十二時四十五分～岡山南教会集合

十三時～講話と祈り

十三時半～祝福を受け

出発。（雨天決行）

行程：岡山南教会↓住吉宮（上陸地付近）↓松

寿寺↓中央図書館（休憩）↓本行寺跡↓袋町

牢獄跡↓岡山教会

バス：岡山駅五番乗り場。

岡電・労災病院行き。

海峽からの風 31

下関労働教育センターだより

●デモが「テロ行為」とその本質においてあまり変わらない」というのには驚きませんでした。●そもそも「デモ」をするには警察に届けを出さねばならず、勝手にできません。しかし、警察も「許可」しているのではないのです。●まず、憲法第二十一条の「表現の自由」によってデモ行為は保障されています。従って、デモは「届出制」であって、「許可制」ではありません。なぜなら、デモの内容について警察が審査して可否を判断することは、憲法に反することになるからです。●では、何でも届け出たらどんなデモでもできるのかと言えば、そこには制約があります。●デモや集会の場合、道路や公園など公共の場所や施設を利用することになり、関連する法律に（例えば道交法や公園法）規制されます。デモや集会の「形態」が使用される場所や施設には合わない

場合や、他の利用者の使用に著しい不都合を生じさせる場合、規制や不許可になるのです。●ここで大切なのは、これらの法律は、デモの内容で規制するのではなく、他の利用者の利益や権利、施設の管理についての秩序維持を目的にして規制しているのであり、従って憲法には抵触しないのです。●さて、憲法が保障するデモを「テロ」呼ばわりした人は、大音量のデモが「本来あるべき民主主義の手法とは異なる」とも批判しました。しかし、各地方自治体には騒音に関する条例があり、概ね八十五デシベルを規制対象にしています。国会の外の「大音量」が規制されないのは、条例にも反していないからです。●勝手な主観で正当な国民の権利を、不法な「テロ」と同一視し、懸念されている「特定秘密保護法案」を強行採決することが「本来あるべき民主主義の手法」なのでしょうか？

（廣崎リュウ）

約二十五分、福浜市営住宅前下車徒歩五分。申込締め切り…一月二十九日(水)

問合先：岡山教会

電話 086-222-4093

山口・島根地区

養成委員会

「霊操を広げるために」

昨年十二月八日(日)、

宇部教会で英神父(鎌倉のイエズス会黙想の家)を講師に宇部小野田ブロック待降節黙想会が行われ、ブロック外も含め約百名参加。次回は、三月九日(日)細江教会にて四旬節の黙想会。

地区少年の集い

「日韓青少年の集い」

一月十六日(木)～一七日(日)にかけて、釜山教区新仙教会の学生たちが来日した。昨年八月に「日韓青少年の文化体験」で訪韓した学生宅を中心にホームステイをし、山口や広島の新原ドーム、鞆町を巡った。

信徒協理理事会

昨年十二月十日(火)山口カトリックセンターで地

第3回 万葉杯ソフトボール大会

昨年11月4日に、9チーム、約140人が福山に集まり、熱い戦いを繰り広げました。前日まで雨が降っていてどうなるかと心配していましたが、神様がいい天気をプレゼントしてくださったことに、なによりも感謝です。

優勝は、なんと、司祭団チームです!! 呉との決勝戦では、呉チームから2人借りるといふ小細工もありましたが、司祭たちの御老体に鞭うちながらのナイスプレーには目を見張るものがありました。優勝したチームに贈られる万葉杯は、キャプテンの万葉司教様が持って帰られ、司教館に飾られています。

2位以下の結果は次の通りです。2位呉、3位鞆町、4位三篠(本気チーム)、5位玉野、6位三原、7位福山、8位岡山、9位三篠(普通チーム)でした。

子どもや若者から70歳以上の神父様までが一緒になって体を動かし、楽しいひと時をすごした一日でした。

福山教会 伊藤光子



区の信徒協理理事会が開かれ、一月十二日(日)の定例会準備として、「信徒使徒職」のあり方をもう一度新たにし、教区百周年を準備するように話し合われた。

AGORA (アゴラ) 閉店

長らく山口の地で福音宣教の場として親しまれていた書店「AGORA」(女子

パウロ会経営)が昨年十二月二十五日をもって閉店した。

古巣神父CD

日本のキリスト教の昨日 今日明日に関するCD(七枚)あり。希望の方は山口島根地区事務局まで。

※連絡先、希望数、お名前を明記し、郵送かFAX 083-923-6363まで。

広島教区の施設 20

学校法人広島信望愛学園

本部事務局

学校法人広島信望愛学園は、一九九三年三月、広島県内の六つの司教区立の幼稚園が集まり、一つの学校法人となりました。六つの幼稚園とは、世界平和記念聖堂(鞆町教会)に隣接する聖母幼稚園、翠町教会内の広島マリア幼稚園、観音町教会内の広島暁の星幼稚園、尾道教会内の尾道清心幼稚園、福山教会内の聖園幼稚園、三次教会内の三次清心幼稚園です。今年で法人設立二十一年となります。

理事長に前田万葉司教、各園の園長を司祭、修道女が担い、園児、保護者、教職員と地域の方々に福音の光をともし、導いています。教職員は、園児、保護者に、手を合わせて祈ることを、愛をもって生きることを教え、イエス・キリストの福音を告げ知らせる使命を持ち、日々幼児教育に携わっています。毎朝礼時には、始業の祈りでスタートを切り、終業時には、終業の祈りを唱え、今日の一日、神に感謝を捧げます。また、定期的に司祭による聖書勉強を行い、聖書に触れる機会を持つ



ています。さらに、年に一度全教職員による総会を開き、カトリック幼稚園で働く使命について、講師を招き、講演、分かち合いを行い、カトリックの精神を学んでいます。

法人本部は、昨年竣工した「愛宮ラサール記念館」の三階に事務所を置いています。六つの幼稚園の縁の下の方力持ちとして、全教職員が、「信仰」と「希望」と「愛」を持って幼児教育に貢献できるように、尽力していきたいと思えます。

教区民の皆様、お近くに小さなお子様がいらつしやいましたら声をかけてください。

前田司教様
神学院で静修指導

昨年十月九日と十日、神学院にて、前田司教様が『静修』をご指導くださいました。『静修』とは、簡単に言えば短い黙想の事ですが、神学院においては学期中毎月一回行われ、沈黙と祈りの内に心静かに過ごします。

前田司教様が、日本カトリック神学院東京キャンパ



ご挨拶

三末篤實名誉司教

クリスマスと新年のおよろこびを申しあげます。

神のお恵みとご配慮の中で、よろこばしい歳月をお過ごしになられたと拝察いたします。

私は退任後、透析に



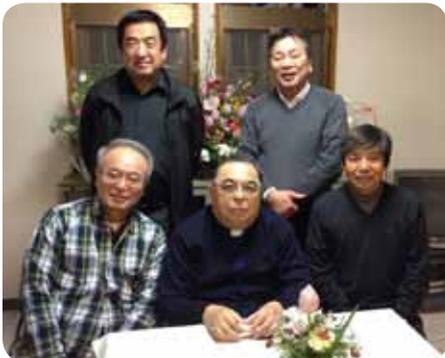
(79)

スをご訪問くださるのは、前身の旧東京カトリック神学院時代も含めて初めての事であり、日本の教区司祭養成の為の神学校が一つであるという事が、より具体的に実現されつつある過程の象徴的出来事と言えます。今回は、『あなたの信仰があなたを救った』というテーマで、静修講話を夜と朝の二度いただきました。司教様の生い立ち、神学生

時代、小教区と中央協議会事務局長時代のご経験から、とても身近で現実感をもったお話をいただきました。特に、『お言葉ですから網をおろしてみましよう』という叙階の時にお選びになったみ言葉が、人から見れば『島流し』にも見える離島での助任への任命、主任司祭時代突如として受けた異動の命令、大切にしている『司牧者』という観点からは一見外れる中

す。今後も主のみせつりにすべてをおささげし、最善を尽くして参りたいと思います。

お祈りご支援くださるすべての皆様のうえに神の祝福をお祈りしつつ！



翠町教会



中央協議会への出向命令、そして『お言葉通りになりますように』と最も感じたといわれる司教任命告知の時と、信仰の従順が問われる多くの場面で、ご自分を力づけたというお話は、司教様の和やかな雰囲気と五島の方言を散りばめた語り口で、時に笑いも引き起こしつつ、神学生一同の心に深く残りました。

なお、日本カトリック神学院は、主に長崎管区の為の福岡サン・スルピス大神学院と、その他の教区の為の東京カトリック神学院とが、二〇〇九年に合同して成立しましたが、旧来の土地建物を利用する為、キャンパスは福岡と東京の二つになり、学年によって移動

しています。しかし、養成の内容等諸々の必要性から、一か所にまとめるべきであると司教団が決定し、今年度は神学院常任司教以外の司教様方も視察を兼ねて双方のキャンパスの静修指導に超越になっています。

(猪口大記助祭)

中国ブロックカトリック高校生大会のお知らせ
テーマ：「神は、愛である。」
会・愛・相 I love you because...
日時：2014年3月24日(月)～27日(木)
場所：国立山口徳地青少年自然の家
対象：中学3年生～高校3年生
詳しくは各小教区配布予定の案内をご覧ください。



二〇一四年は、新教皇によるシノドスが「家庭」という主題で開催される予定です。福音宣教の観点から家庭を考えて行く年になりそうです。(にん)